

2022 年度 MS 自己点検・評価報告書

構成: 報告書(本資料)・各部署自己点検報告書

I はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況の自己点検・評価を実施している。2021 年度からは、これまでの「MS-26 戦略プラン」の進捗状況を点検・補完するために、より重点を置く目標達成のための具体的内容を、「中期事業計画」として改めて明確化した。本報告書は当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめることで、本学全体の内部質保証体制のチェック機能を担っている。

II 本報告書 作成から活用までの流れ

【3 月】各部署は年度当初に策定した事業計画に対し、自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として総合企画部に提出。

【3 月】総合企画部にて事業内容を確認。自己評価を参考に、「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに「実績・長所」及び「課題」を取りまとめた。

【4 月-】学長スタッフ会議・大学評価委員会、大学協議会、常勤理事会で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

III MS ドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した C. 取り組みはしたが改善していない D. 十分に取組みせず改善していない

| MSドメイン別事業 | | 評価 A | | 評価 B | | 評価 C | | 評価 D | | 判定不可 | | 総計 |
|-----------|------------------------|------|------|------|------|------|-----|------|----|------|----|-----|
| | | 事業数 | % | 事業数 | % | 事業数 | % | 事業数 | % | 事業数 | % | |
| 大学 | 01-1: 人材の確保と育成／学生 | 39 | 32% | 49 | 40% | 22 | 18% | 8 | 7% | 4 | 3% | 122 |
| | 01-2: 人材の確保と育成／教職員 | 31 | 31% | 57 | 58% | 9 | 9% | 2 | 2% | 0 | 0% | 99 |
| | 02-1: 教育の充実／学びの促進 | 72 | 32% | 131 | 59% | 12 | 5% | 6 | 3% | 2 | 1% | 223 |
| | 02-2: 教育の充実／大学院 | 25 | 22% | 68 | 61% | 13 | 12% | 5 | 4% | 1 | 1% | 112 |
| | 02-3: 教育の充実／学生支援 | 18 | 24% | 39 | 53% | 6 | 8% | 7 | 9% | 4 | 5% | 74 |
| | 03-1: 研究の充実／研究推進 | 6 | 13% | 29 | 64% | 9 | 20% | 1 | 2% | 0 | 0% | 45 |
| | 03-2: 研究の充実／国際的研究拠点 | 4 | 29% | 5 | 36% | 5 | 36% | 0 | 0% | 0 | 0% | 14 |
| | 04-1: 社会貢献 | 15 | 26% | 30 | 52% | 6 | 10% | 3 | 5% | 4 | 7% | 58 |
| | 05-1: 組織・経営改革／組織の活性化 | 19 | 42% | 24 | 53% | 0 | 0% | 1 | 2% | 1 | 2% | 45 |
| | 05-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上 | 6 | 23% | 16 | 62% | 2 | 8% | 2 | 8% | 0 | 0% | 26 |
| | 05-3: 組織・経営改革／基盤整備 | 19 | 35% | 30 | 56% | 3 | 6% | 2 | 4% | 0 | 0% | 54 |
| 高校 | 01: 人材の確保と育成 | 0 | 0% | 4 | 80% | 1 | 20% | 0 | 0% | 0 | 0% | 5 |
| | 02: 教育の充実 | 3 | 50% | 3 | 50% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 6 |
| | 03: 社会貢献 | 2 | 100% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 2 |
| | 04: 組織・体制整備 | 0 | 0% | 4 | 100% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 4 |
| 総計 | | 259 | 29% | 489 | 55% | 88 | 10% | 37 | 4% | 16 | 2% | 889 |

%は四捨五入により合計 100%とならない場合がある。

※判定不可は新型コロナウイルス感染症が主な要因であった。

【大学】

1-1: 人材の確保と育成／学生

(1) 実績・長所

- ・優秀な人材確保に向けて、各学部で入試形態別の在学生成績分析を実施した。
- ・入試情報サイトのコンテンツ拡充や SNS を用いた戦略的広報の展開、オンライン相談会の定期開催等、入試広報を強化した。
- ・K方式の効果・課題の検証し、法・経営・経済・農・都市情報・人間学部で2024年度入試から新規に導入する予定である。
- ・昨年度に引き続き、事前予約制でのオープンキャンパスを対面実施した。また来場できない方へのフォローとして、WEB OPEN CAMPUS を併せて開催した。
- ・入試制度改革を目的に、入試戦略検討WGを設置した。

(2) 課題

- ・引き続き、効果的な受験生(留学生を含む)との接触方法の検討。
- ・東海地区以外からの出願者割合が低いことから、地方の受験生が受験しやすい制度の検討。
- ・各種入試方式における効果・課題の検証。
- ・ネット出願システムにおいて、受験生の併願を促す制度設計の検討。
- ・学齢人口の減少を踏まえ、志願者の質と量の確保方法の検討。

1-2: 人材の確保と育成／教職員

(1) 実績・長所

- ・「FD・SD フォーラム」(オンライン)において、データサイエンス・AI 教育に関する動向及び本学のフルオンデマンド講義である「データサイエンス・AI 入門」の授業構成・授業や試験方法・点検評価結果などを共有した。
- ・大学評価委員会及び各学部を中心とし、評価項目の見直し等、教員業績評価制度の改善を実施した。
- ・研究不正防止に向けた各種研修を充実させた。
- ・URA を中心に、学外競争的資金の獲得支援、企業とのマッチング、知的財産管理、産官学連携・研究支援サイト(MRCS)の開設、カーボンニュートラル研究推進機構の設置等を実施し、産官学連携活動を促進した。

(2) 課題

- ・教育職員採用・昇任に関して、ポリシー実現に向けた教員組織編成方針の見直しを継続。
- ・教育研究支援の充実に向け、学部長会下にWGを立ち上げ特任助手制度の検証・改善。
- ・FD参加率を向上させるとともに、ICTを活用した授業形態についてのスキルアップの取組を実施。

2-1: 教育の充実／学びの促進

(1) 実績・長所

- ・「ダッシュボード」をはじめとしたIRデータの蓄積により、学修成果の経年比較が可能となり、学修成果向上に向けたデータを活用した議論が一層浸透してきた。
- ・「データサイエンス・AI 入門」科目運営委員会を立ち上げ、科目や試験の運営方法及び試験問題作成の検討等を行った。
- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」において各部署での取組の恒常化を目的に2021年度から導入した「特別継続支援」15件を含む107件の取組の実施を支援した。
- ・学修ポートフォリオを通して、修得単位・GPA・DP達成度を表示した「学修成果フィードバックシート」を学生に

提供した。

- ・アントレプレナーシップ教育等、社会連携センター活動を一層活性化させた(各種ワークショップ、他大学・企業等との連携事業等)。
- ・国際化推進計画 2026 の前期評価検証と後期実施計画を策定した。
- ・対面による海外研修及び各種取組を再開するとともに、オンラインでの各種取組も継続する等、学びを工夫した。

(2)課題

- ・大学評価委員会を中心とした「教学マネジメントシステムの実質化」の継続。
- ・「数理・データサイエンス・AI 認定制度(リテラシーレベル)」への申請。
- ・「データサイエンス・AI 入門」単位修得者(「数理・データサイエンス・AI 認定制度(リテラシーレベル)」プログラム修了者)へのデジタルバッジ発行に向けた検討。
- ・2022 年度に実施した「学びのコミュニティ創出支援事業」の検証・各取組へのフィードバック、支援終了後の継続性の確認及び同事業の定着。
- ・4 年間の学修成果の集大成をフィードバックできるよう、4 年次後期成績を反映した「ディプロマサプリメント」の発行に向けた検討。
- ・Enjoy Learning プロジェクトの参加学生の成長実感や事業達成度の検証及び更なる活性化策の検討。
- ・多様な国・地域からの優秀な留学生の確保及びキャンパスの国際化推進のための各種留学制度・奨学金制度のあり方を検討。
- ・副専攻制度の充実に向けた取組の継続。
- ・アントレプレナーシップ教育に対する学内の認知度向上に向けた取組の推進。
- ・コロナ禍で入学した学生が卒業年度を迎えることから、成績やアンケート等の IR データの分析。
- ・留学生の受け入れ及び学生の海外への送り出し件数増加に向けた検討。
- ・学生の授業外学修時間の増加に向けた方策の検討。

2-2:教育の充実／大学院

(1)実績・長所

- ・修了時アンケートを実施し、成績やアンケート等の IR データをダッシュボードとして作成し、大学評価専門委員会を通じて、研究科にフィードバックし、教育改善のエビデンスとして活用した。
- ・大学院生の学びの機会創出及び進路の可能性拡大のため、長期インターンシップのマッチングを行う「ジョブ型研究インターンシップ推進協議会」へ入会した。
- ・昨年度作成した修士・博士前期課程における「学位授与方針対応表」を点検した。

(2)課題

- ・単位制導入後の効果・課題の検証。
- ・収容定員の変更の入学者状況を確認し、学生確保に向けた対応策を入試戦略検討 WG 内で具体的に検討。

2-3:教育の充実／学生支援

(1)実績・長所

- ・大学評価専門委員会において、留年者及び退学者の成績情報等の IR データ分析を実施した。
- ・引き続き、コロナ禍に対応した各種学修・経済及び施設環境整備を実施した。
- ・障がいを持つ学生向けの進路支援ガイダンスを実施した。

- ・対面での就職支援を再開するとともに、オンラインによる面談・サロンも併せて実施した。
- ・「名城大学チャレンジ支援プログラム」において、留学生を交えたグループワークを実施した。
- ・起業活動促進拠点「ものづくりスペース M-STUDIO」の運用を開始した。

(2) 課題

- ・引き続き、友人作り等の機会提供や、退学者防止への面談実施、就職関連行事への出席率向上に向けた工夫等、学生視点に立った取組の充実。
- ・障害者差別解消法の改正への対応として、ガイドラインの修正。

3-1: 研究の充実／研究推進

(1) 実績・長所

- ・5 大学(藤田医科大学、愛知学院大学、岐阜薬科大学、摂南大学、本学)による「先端医療開発コンソーシアム」協定を締結した。
- ・若手研究者の育成を目的とする「世界的課題を解決する知の『開拓者』育成事業(T-GE_x) (代表機関:名古屋大学)」が推進する「知の『開拓者』コンソーシアム」に連携学術機関として参画し、本学研究者 1 名を派遣した。
- ・出産・育児に伴う長期休業の取得中・取得後における研究活動を維持・支援するため、「ライフイベントに係る研究補助員制度」を創設した。
- ・学外競争的資金の獲得支援、企業とのマッチング、知的財産管理等を目的とした、産官学連携・研究支援サイト(MRCS)を開設した。
- ・研究展示会及び銀行技術商談会に参加した。また、名城大学リサーチフェア 2022 を対面で開催した。
- ・総合研究所にカーボンニュートラル研究推進機構を設置した。
- ・研究活性化に向け、科研費申請説明会・研究倫理・コンプライアンス教育の推進に係る啓発活動を実施した。
- ・本学の教員が学術上の専門的知見に基づき、企業等において生じた課題について解決のための助言を行う「学術コンサルティング制度」を創設した。

(2) 課題

- ・各種展示会、銀行の技術相談会への出展、リサーチフェアの開催を通して本学研究シーズと外部ニーズのマッチングの促進。
- ・URAによる新体制で企業等との共同研究、各府省庁大型事業への申請など優先事業を意識しつつ、外部資金へのマッチングの拡充。
- ・科学研究費新規申請の増加に向けた継続的な支援策の検討。

3-2: 研究の充実／国際的研究拠点

(1) 実績・長所

- ・研究ブランディング事業終了後も採択済 2 事業を継続し、本学の特色として総合研究所の領域指定研究センターで推進した。
- ・吉野終身教授を名誉研究センター長とした次世代バッテリーマテリアル研究センターを設置した。

(2) 課題

- ・上記 2 事業に続く国際的研究拠点の形成。

4-1: 社会貢献

(1) 実績・長所

- ・社会連携センターの活動を通じ、学内と地方自治体及び企業等を含む学外とをマッチングする活動を推進した。
- ・地域連携講座を親子向け、社会人向け、オンライン形式、対面形式等の多様な方法・ターゲット・テーマで開講した。
- ・専攻科において、指定管理法人第2期の1年目に新カリキュラムを導入した。

(2) 課題

- ・社会連携活動の学内における認知度の向上及び幅広い教職員・学生の連携。
- ・社会人(特に30代、40代、実務家)の学び直しニーズの把握及び大学ならではの内容を踏まえた独自講座の実施。

5-1: 組織・経営改革／組織の活性化

(1) 実績・長所

- ・第3期認証評価に関し、大学基準協会から、「適合」である旨の評価結果を受領した(長所6件、是正勧告0件、改善事項2件)。
- ・競争的補助金事業である私立大学等改革総合支援事業では、全学協力のもと要件充足に向け取り組み、全4タイプ中2タイプでの採択に至った。
- ・引き続き事務組織を中心とした業務改善活動を推進した。
- ・一部研究科の収容定員を見直した。

(2) 課題

- ・第4期認証評価の方針の確認及び内部質保証実現に向け、引き続き、大学評価委員会を中心とした「教学マネジメントシステムの実質化」の継続実施(2-1(2) 教学マネジメントと重複)。
- ・志願者獲得に向けた戦略的入試広報の継続実施。
- ・規模適正化を図った大学院への志願者の確保を行う必要性(2-2 教育の充実／大学院と重複)。
- ・社会情勢及び学生ニーズを踏まえた改組の実施。
- ・ICT戦略骨子に立脚した大学全体のDX化の推進。

5-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上

(1) 実績・長所

- ・株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した、高校3年生が選ぶ「志願したい大学ランキング」において、6年連続で東海エリア1位を獲得した。併せて、5年連続で東海エリア男子の志願度1位を獲得した。
- ・報道によるブランド力向上及びメディアとの関係強化のため記者懇談会を実施したほか、プレスリリース等による積極的な情報発信を実施した。
- ・朝日新聞社と共催し、「社会を創造する次世代の情報エンジニア」をテーマとする講演会を開催する等、情報工学部及びデータサイエンスに関連する広報活動を推進した。
- ・本学のSDGsに関するホームページを立ち上げた。
- ・カーボンニュートラル推進プロジェクトにおいて、各部会における取組を推進した。
- ・開学100周年に関わる特設サイト及び本学の様々な学びを紹介する特設サイト等を新たに制作した。

(2)課題

- ・継続して大学ホームページや SNS を活用した大学広報の推進。
- ・THE大学ランキングの向上に向けた施策の検討。

5-3:組織・経営改革／基盤整備

(1)実績・長所

- ・開学 100 周年グッズを制作し、名城大学及び附属高等学校の教職員に配布することで、開学 100 周年ロゴマークの浸透と一体感の醸成を推進した。
- ・2022 年 10 月の大学設置基準改正への対応に伴い、学内体制の整備を推進した。
- ・収入増加策及び支出削減策の達成に向けた取組を実施した。
- ・全学共用棟着工に向け、天白 2・3 号館解体に着手した。

(2)課題

- ・中期事業計画に基づく各種事業の進捗管理の推進。
- ・全学共用棟等再開発計画の円滑な推進。

【高校】

1:人材の確保と育成

(1)実績・長所

- ・志願者数は 5,987 名(前年比 102%)、入学者数 647 名となり、学則定員を確保した。
- ・志願者数は 21 年連続で愛知県 1 位。

(2)課題

- ・戦略的入試広報の強化。

2:教育の充実

(1)実績・長所

- ・到達度テストを用いて生徒一人ひとりの基礎学力の到達度を網羅的に測り、つまづきをあきらかにし、苦手箇所にあわせた課題を個別配信した。
- ・2022 年度入学生から 1 人 1 台のタブレットを導入し、生徒・教員間のコミュニケーションツールとして活用した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響から中止していた国際化プログラムを再開するとともに、カナダや中国をはじめとする東アジアの国々とのオンライン交流も継続して実施した。
- ・1、2 年生全員が参加する「探求 Day」について、カーボンニュートラルをテーマとして開催し、社会人・卒業生等 55 名を助言者として招聘、及び名城大学都市情報学部教員による基調講演を実施。全生徒で実現可能なプロジェクトを考え、発表を行った。

(2)課題

- ・国際化プログラムの更なる全校的な広がり。

3:社会貢献

(1)実績・長所

- ・新富のぞみ保育園の避難所となっていたが、水害対策として避難場所を一階からより安全性の高い2階アリーナへ拡大した。
- ・生徒防災訓練、生徒防火避難訓練、生徒防災教育、専任教諭防災研修、非常勤講師防災訓練、AED講習実施に向け、防火防災推進委員会を9回開催した。

(2)課題

- ・避難所マニュアルを常に見直し、地域住民への周知徹底の実施。

4:組織・体制整備

(1)実績・長所

- ・同窓会役員の増員を実施するとともに、小規模での役員交流会を増加させた。
- ・寄付金件数増加を目的に、保護者会時に掲示及び寄付金パンフレットを設置した。

(2)課題

- ・同窓会に広報委員会などを設置し、100周年に向け同窓生への発信を促進。
- ・卒業生で授業、講座の講師を依頼できる方のリスト化。
- ・寄付金呼びかけ及びそのタイミング・方法について、一層の検討と改善。

以上